

すてっぴ

12月号



発行／大野城まどかぴあ 男女平等推進センター

編集／男女平等推進センター情報サポーター

平成 24 年度
まどかフェスティバルの様子
(まどかぴあ特設ステージ)

秋晴れの 11 月 3 日・4 日、市役所及びまどかぴあで、秋のお楽しみ「まどかフェスティバル」が行われ、大勢の人で賑わいました。

3 日は、まどかぴあのギャラリーモール特設ステージで、ジャグリングや工作お話し会、オカリナ演奏会等の盛りだくさんの催しがありました。



男女平等推進センターからは、啓発サポーター「まどか」による男女共同参画昔話『モモタローがモモコだったら…』が披露。おどろきの展開に会場の子どもたちもびっくり!!



ひと、ひと、ひとでいっぱい!



日 時	講 座・イベント	内 容・その他
12月22日 (土) 13:30~15:30	あなたとわたしのハートフルステージ 谷川俊太郎と石川セリの世界~詩と音楽の贈り物~ あなたの心に詩と音楽の贈り物…。夢のようなコラボレーションを体感できるのは、まどかぴあだけ。残席わずかです。お急ぎください。	出演者 谷川俊太郎・石川セリ 谷川賢作・浜口茂外也 チケット料金 一般 1,500円 ペア券 2,500円 チケット取扱 総合案内・チケットぴあ ローソンチケット
1月22日 (火) 10:00~12:00	平成24年度大野城まどかぴあ男女平等推進センター 市民グループ活動支援事業 柳淑子 講演会「女たちが未来を拓く」 男女共同参画社会の実現にむけて、私たちが抱える課題を柳先生に整理していただきます。皆さんお話しあわせの上ご参加ください。お楽しみに!	講 師 柳淑子(元久留米女性会議代表) 会 場 会議室 3(3階) 定 員 30名 受講料 300円 申込方法 電話・FAX・総合案内 およびHPにて受付
①12月2日(土) 10:00~12:00 ②12月9日(土) 13:30~15:30 ③④(通し) 2月23日(土) 10:00~15:00	女性リーダー養成講座「活かす イカス 女性力!」 「わたしらしく」生きていくためのヒントは、自分を見つめなおすことから始まるのかも…。さあ、もう1歩前に出て『ホップ・ステップ・ジャンプ!』	講 師 ①林田スマ②~④深月敬子 会 場 会議室 2、大会議室(3階) 定 員 30名 受講料 無料 対象者 女性で原則全回参加できる方 申込方法 電話・FAX・総合案内 およびHPにて受付

★講座、イベント等のお申し込み・お問い合わせは⇒男女平等推進センターへ

〒816-0934 大野城市曙町2丁目3番1号
TEL (092) 586-4030
FAX (092) 586-4031
開館日時／月曜日～金曜日 9時～19時
第2・4土曜日 9時～17時
閉館日／第1・3水曜日、第1・3・5土曜日
日曜日・祝日、年末年始



左のマークのある講座・公演は託児が利用できません。開催日の1週間前までにお申し込みください
・1人1回600円
・満1歳～小学校就学前まで

ホームページ <http://www.madokapia.or.jp/>

あなたとわたしのための元気塾（第5回）

「がんばりたい これからの自分

～地域で仲間づくりを楽しもう～

日にち：10月6日（土）



講師：十時 裕さん（ととき ひろし）

十時裕さんは30年間、九州各地で200近くの自治体の都市計画、まちづくりに関わり、住民参加を推し進めてきた。福岡県内でも数多くの様々な地域コミュニティの支援、研修を手がけている。会場に入ると、既にグループ・ワークショップの机の配列。お話よりも実践体験型だ。



おれがやらねば誰がやる

ボランティアとはラテン語のボランタスで自由意思、喜んでと云う意味になる。

前述の「ボランティア」の意味が、現在日々使われているような意味合いをもつには、「ほっとけない」「我慢できない」に始まり⇒自発的貢献、無償性、連帯性、公益性... ⇒社会性活動へと発展させることが重要である。

例えば、保育園の運動会での出来事。あどけない女の子が地を這うように一生懸命参加している。先生はにじり寄りを見つめるが、手は出さない。その時会場にいた一人の男性が思わず「がんばれ！」と手をたたく。すると、となりに輪が広がり、期せずして会場全体が応援の拍手の渦に包まれる。みんなわが事のように感動と喜びを分かち合っている。この湧き出る気持ちこそがボランティアに通じるものだと思う。そう、「おれがやらねば誰がやる。」という事か。



早速グループに分かれ
仲間作りの作業が始まる。

いっしょに踏み出そうよ

ひとりでは小さい、大きな輪を作らねば。「この指とまれ」よりも先ずお互いに提案し、お互い理解し合う。そのために他己紹介シート（夢、趣味、強み弱点など相手の自己紹介の聞き取り表）を使い、相手をどう受け止めたかを発表。自分自身を相手により深く知ってもらおうという相互理解と信頼により、共通の目標を共有し、その目的達成のための方策、やり方を議論し決定する。あとは社会性公益性を踏まえ、目的に向かって進むだけだ。

まるで小石が水面に大きな輪を広げて行くように、大きな大きな輪の広がりを期待する。



すてっぷで楽しく！

皆さんがお読みになっているこの「すてっぷ」は男女平等推進センターの幅広い活動と情報をお伝えする毎月発行の情報紙。それを支えているのが「情報サポーター」で、センターの主催講座やイベントの取材や編集、壁新聞「ほっぷ」の作成など行なっています。どなたでも参加できますので、是非一緒にやりましょう。つまり、「自発的貢献」から「社会性活動」へ発展させるというわけです。男女平等推進センターには、そのほかにも「託児サポーター」「事業サポーター」「啓発サポーター」などのサポーターがあり、いろいろな人が活動しています。

みなさん、ご自分のやりたいことを見つけましょう。

（情報サポーター 原田 久）

★ボランティアの4原則★

- 社会性（公益性・公共性）
- 無償性
- 先駆性
- 自発性

大野城市男女共生講座（第4回） 学ぶ人は美しい～悲観論を足蹴にしよう！

日にち：10月18日（木）

講師：馬場 周一郎さん
（元西日本新聞記者）



講座の冒頭、講師の呼びかけで深呼吸を3回やって気分を整える。会場も落ち着きを取り戻したようだった。深呼吸は吸って吐くより、吐ききってから



吸う方が自然な呼吸法ができるのだ。私たちは吸いこむことばかりで吐き出すのを忘れているのではないか。

ダムに溜まったままの水は飲めないが流れる水は飲める。呼吸もいらぬものを吐き出してから吸うと新鮮な空気が吸えるし、新しい知識も入ってくる。

四苦八苦の世でも美しく生きよう！

(1) 美しさ、輝きとは何だろう。

一般的に女性の美しさを語るとき、内面を語ることが多いが内面よりも外面的美しさじゃないといけなそうだ。桜も満開の時期が一番美しいが、あとは段々老残化していく。その散りゆく過程も美しいという。定年後に今まで疎遠だった同窓会の誘いが来るようになった。そこで気づいたことは、同じ歳なのに老け方がずいぶん違うことだった。男性は髪の問題もあるが、学生時代はスポーツマンで何でも万能だった人が現在では目立たない。女性では美しく、憧れていた人が埋没して見つけられない。実際探すのに苦労したが、やっと探し当てた人は、昔の痕跡はあったが生気を感じなかった。逆に学生時代は、学業でも容姿でもほとんど目立たなかった人が華やかに輝いていた。この差はいったいなんだろうかと思う。一般に、

★男の顔は履歴書…その人が歩いてきた道。

★女の顔は領収書…本当は夫がやるべきことを妻が担ってきた分。これは請求書でもある。

と言われる。顔には男だけではなく女にも、その履歴は刻まれる。

(2) 性別役割分業を変える高齢社会。

夫には定年後、積極的に妻と一緒に過ごそうとする人がいる。だが、妻には夫が現役の間に築き上げた心地よい空間がある。そのペースを夫の定年によって乱されたくない。夫のことを理解しているつもりでも体は苛立ちが生じて、健康を害することもある。また、高齢化社会といわれる現代では、深刻な介護の問題がある。講師自身を例にした話では、母親を3人の姉弟で1年ごとの交代で面倒をみることになったが、些細なことが原因で1ヶ月で仲たがいがした。どこにでもある問題だ。親にかぎらず自分の伴侶の場合だってある。どちらかが面倒を見ることになる老老介護だ。昔企業戦士という言葉があったが、これからは介護戦士が必要かもしれない。昭和30年代を描いたNHKの「梅ちゃん先生」の家族像は、現代では皆無に近い。これからは孤立死、孤独死が増えるだろう。だが、これは現在の私たちが選り取った道である。

(3) 夕日もまた太陽、遅すぎるスタートはない。

講師の馬場先生が選んだ好きなことばかり

☆髪が白くなったからとて《長老》なのではない。ただ年を取っただけなら空しく老いぼれた人と言われる（ダンマバダ）

☆この世の最大の不幸は貧しさでも病気でもありません。自分が誰からも必要とされていないと感じることです（マザー・テレサ）

定年後、現役時代にやり残したことや新しいことにチャレンジする人は多い。各地のカルチャーセンターでも受講生の半数以上を60



歳以上の人が占めるという。かく云うわたしも、今までできなかった未知の世界への興味はつきないし、チャレンジもしている。これまでの常識や価値観が揺らいでいる現在「自分流」に生きていける可能性は大いにある。今日の講演タイトルのごとく高齢化社会、介護、家族……など悲観論を足蹴にして、美しく生きることになろう。

（情報サポーター 昂）

◆◆◆日本女性会議をご存知ですか?◆◆◆

日本女性会議は、昭和50年(1975年)の「国際婦人年」とそれに続く「国連婦人の10年」を記念して、1984年から女性の社会的地位の向上を目的に、毎年全国から3,000人規模の参加者が集う、男女共同参画をテーマにしたものでは国内最大級のイベントです。29回を数える今年は、「きめる、うごく、東北(ここ)から」をテーマに10月26日から28日まで宮城県仙台市で開催されました。次回は、参加者の感想を掲載します。お楽しみに!

日本女性会議2012仙台
Japan Women's Conference in SENDAI 2012



★特別プログラム「女性たちが語る 3.11～これまでと今と」より 女性たちによる支援活動紹介★

震災当初、仙台市内の避難所は主に小中学校に開設され洗濯機がなく男女別の物干し場もありませんでした。女性は家族優先で自分のことは後回しがち。そこで、避難所の女性から洗濯物を預かり、女性ボランティアが洗濯する活動が始まりました。その中で女性の声を拾い、支援につなげていきました。

12月の男女平等推進センター

日	曜	予 定
1	土	センター閉館日 市民グループ活動支援事業 男性・子ども男女共同参画セミナー
2	日	センター閉館日
3	月	
4	火	情報サポーター養成講座② 子育て中のコミュニケーション講座③
5	水	休館日
6	木	ヘルシーエクササイズ⑥
7	金	親子のためのブックタイム①
8	土	
9	日	センター閉館日
10	月	託児センター定例会
11	火	啓発センター定例会 情報サポーター養成講座③
12	水	
13	木	ヘルシーエクササイズ⑦
14	金	
15	土	センター閉館日 市民グループ活動支援事業
16	日	センター閉館日
17	月	事業サポーター定例会 情報サポーター編集会議
18	火	
19	水	休館日
20	木	ヘルシーエクササイズ⑧
21	金	親子のためのブックタイム②
22	土	谷川俊太郎と石川セリの世界
23	日	センター閉館日
24	月	センター閉館日
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	休館日
29	土	休館日
30	日	休館日
31	月	休館日



「すてっぷ」のバックナンバーがHPでご覧いただけます。皆様のご意見・ご感想お待ちしております。お問い合わせは、☎586-4030(男女平等推進センター)



相談のご予約・お問合せは…
☎092-586-4035へ

☆大野城まどかぴあ 相談室のご案内☆

相談は無料です。まずはお電話してください。

■総合相談・・・月曜～金曜 9時～17時

※土・日・祝日と休館日はお休みです。

面接相談(要予約)と電話相談ができます。

■臨床心理士による相談・・・火曜・木曜 月4回

面接、電話相談。予約してください。

生き方、夫婦・親子関係、対人関係、仕事のこと、DVの相談など、気持ちの整理をしませんか。

<今月の相談日程>

12月13日・20日・27日(木)、4日(火)

■法律相談・・・第1～4木曜日

13時～16時 面接相談のみ。予約してください。

弁護士が相談を受けます。

■おしごと相談・・・12月12日(水)10時～12時

面接相談のみ。予約してください。

福岡県福岡労働者支援事務所の労働相談員、就業アドバイザーが相談を受けます。

ひとりごと 断捨離の仁義

巷にジングルベルが鳴り響けば、一年の垢を落として新年を待つ師走。つい先日、30年間で9回の引越に持ち歩いた藤カーペット(3畳)の処分を思い立った。七転八倒で居間から外したら、予想外の大きさと重さにたじたじ。部屋の隅に置いて粗大ゴミの日を待つ手もあったが、46個のコンパクトサイズに解体した。ブルーシートを敷いて粉だらけになりながらの格闘は、子育ての景色に「いつもそこにあった仲間」との別れの儀式だった。

狭い日本におひとりさま世帯も増え、ほぼ必然的に登場した断捨離の概念。提唱者は、単に片付け術にとどまらず、モノへの執着を捨てることと説く。片や、日本語にはノーベル平和賞受賞のワンガリ・マータイさんが感銘を受けた“MOTTAINAI”がある。半日を費やした力仕事も翌日の筋肉痛も、矛盾払拭のための仁義と覚えた。

過去と向き合って、次なるステップへGO!

(情報サポーター 山口郁子)

